

第20回 協働のまちづくり推進特別委員会記録

令和5年11月10日（水）

開議 10時 07分

閉議 12時 50分

第2委員会室

【委員】 西田委員長、上野副委員長

村木委員、村武委員、柳楽委員、岡本委員、芦谷委員、川神委員

【議長・委員外議員】 佐々木議員

【事務局】 小寺書記

議 題

- 1 地区まちづくり推進委員会との意見交換について
 - (1) 実施方法協議
 - (2) その他

- 2 提言内容確認について
 - (1) 執行部との意見交換を踏まえた委員からの修正内容確認
 - (2) その他

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[10 時 07 分 開議]

○西田委員長

ただいまから第20回協働のまちづくり推進特別委員会を始める。今日の議題は、地区まちづくり推進委員会との意見交換会についてと、提言内容について。執行部との意見交換を踏まえた修正内容をいただいたので、それを踏まえた確認を行いたい。

なお、今日岡本委員は欠席、川神委員はまだ来られてない。

1 地区まちづくり推進委員会との意見交換について

(1) 実施方法協議

○西田委員長

いつ、誰が、どういう内容で確認するか、確認の仕方も、意見交換の仕方もどうするかについて、ご意見がほしい。事務局から説明をお願いします。

○小寺書記

(以下、資料を基に説明)

○西田委員長

議会広報広聴委員会で毎年される地域井戸端会のイメージが若干あるかと思うが、あくまでも当委員会委員が4名以上で各地域を担当する。まずは日程調整しなければいけない。弥栄は毎月第1月曜日が定例会とのことで、12月は4日、一般質問初日になる。

○柳楽委員

誰が行くか必ず分かってないといけないか。

○西田委員長

それは後でも良いかも。どうしてもということではないと思う。第1月曜が弥栄は定例会だが、内容によっては定例会自体に結構時間が掛かって、その後に意見交換となると先方の時間的都合や精神的な負担がどうだろうかとは思う。

○小寺書記

大体90分くらいを想定されていて、冒頭1時間でどうかという話は聞いている。

○西田委員長

弥栄はそれで良いと。うちの意見交換会が1時間、定例会が30分くらい、全部で1時間半くらいだと。向こうがそれでご承知なら。

○小寺書記

担当課レベルだが。

○西田委員長

それならそれで、良いと思う。何人行けるかわからないが。

○村武委員

でもこの中から5人なので半分。

○西田委員長

誰が行くかは後にして、一応12月4日、弥栄会館へ行くことは決定させてもらって良いか。

ほかの4か所だが、12月11日の週以降、一般質問が終わってから。

○小寺書記

後々のスケジュールを考えるとできるだけ早いほうが良いので、一般質問が終わった7日、あるいは議案質疑の8日の夕方も考慮してほしい。

○西田委員長

では一般質問が終わった日から詰めて、日程を皆で協議したい。

(以下、日程について協議)

○西田委員長

浜田は一応7日に決定してそれで進めさせてもらっても良いかと思うが、いかがか。

(「はい」という声あり)

ではそうしよう。

○小寺書記

あとは8、11、12日で金城・旭・三隅で調整して。

○西田委員長

1日1会場ということで、事務局で会場と日程の調整をお願いする。

○小寺書記

8日は上野副委員長と、柳楽委員だったか。

○西田委員長

上野副委員長、柳楽委員、芦谷委員の3人が可。岡本委員と川神委員に確認して、どちらかでも行っていただければ4人になるので。

一応もう一つの候補日として13日も調整の中に加えてほしい。

(「はい」という声あり)

○村武委員

大体何時くらいからか。

○小寺書記

それは決めてもらって。6時半が多いようだが。あとは担当課に確認してみる。

○西田委員長

6時半をベースに、早ければ6時、遅ければ7時。日程と時間と派遣委員は、まだ決定ではないのである程度調整させてもらう。今月中には相手方の参加者が大体分かる。

この件でほかに何か質問はあるか。

○村木委員

どういったことを相手方に聞くか。地域井戸端会になってはいけないので。

○西田委員長

あくまでも協働のまちづくりに関して、地区まちづくり推進委員会との意見交換なので。協働のまちづくりは必ずベースにあるので、地域井戸端会と重なる部分はかな

りあるが、あくまでもベースは協働のまちづくり。地区まちづくり推進委員会もまちづくりセンターでさまざまな活動をされていて、行政とのつながりも地域とのつながりもある。課題、行政への要望もあると思う。具体的な提案もあるかもしれない。

提言内容を見てもらうことも頭にあったが、あくまでもこちら側は、提言内容にプラスアルファになるような意見をいただいた場合は付加しながら、最終的に提言に仕上げる形に持っていきたい。提言内容にはそれぞれ役割が皆出ているが、役割について尋ねても良い。提言内容に結び付けられるようなテーマで伺えれば良い。

○小寺書記

今送った資料はまちづくりセンター職員と意見交換をやったときのものだが、あらかじめ聞く内容を委員間でも統一しておいたほうが良いかと思うがいかがか。

○西田委員長

10個のテーマが書いてある。このように具体的なテーマで。このシートの形でヒアリングする。何か意見はあるか。

○村武委員

シートにするのは良いと思う。

○小寺書記

そのほうが報告もしやすいと思う。

○西田委員長

ではシートですることについては良いか。

(「はい」という声あり)

○小寺書記

ではどういった内容のシートにするか。

○西田委員長

一応シートでヒアリングするというので。中身についてご意見もらえたら。

○上野副委員長

提言案は送らないということか。

○西田委員長

送ったほうが良いか。

○村武委員

送って、地区まちづくり推進委員会内で見てもらって意見が出れば良いが、全か所でそれができるかどうかは分からない。

○柳楽委員

シートにするとやりやすいと思う。提言案を提供しないにしても、その中でも地域の皆が本当にこれを必要としているのか、確認してみたい部分があると思う。そういうところは質問項目に入れたほうが良いと思う。住民に関わる部分だと思う。

○村木委員

ヒアリングシートを書くのは参加者全員か、それともトップの方か。

○小寺書記

それも委員がやりやすいように決めてもらって良い。

○柳楽委員

それをしようとするハードルが少し高く感じる方もいるかもしれない。文章にして書くのを難しく感じる人もいるかと思うと、このヒアリングシートは一応全員に見てもらって、書き込める方は書き込んでもらい、それがなかなかできない人は目を通してから参加してもらい、といった形で考えたら良いのでは。

○小寺書記

柳楽委員が言われるように、あくまでメモイメージで持っていてもらって良いかと思う。こちらから聞きたいことを事前にお示しするようなもの、書きたい方は書けば良いし、書かなくても話せる方は書かなくても良い。記録をするのは特別委員会だとは思っている。これは提出を求めるようなものではないので、そういう扱いで良いと思う。

○西田委員長

事前にヒアリングシートを送って、自分で書きたい人は書いてもらい。後日それを基に意見を言われても良い。

○小寺書記

あくまでもこちらが、これをベースに進めるというイメージを持っていただきたい。

○西田委員長

ヒアリングシートは事前に送らせてもらって、自由に書いてもらい形にしたいと思うが、よろしいか。

(「はい」という声あり)

○村木委員

各団体、例えば三隅は6団体、旭は5団体あるが、それぞれ皆組織が違うのだが、事前学習といったことを会場に行く前に委員はされるか。部会も違えば名前も違う。相手がどういう団体か事前学習した上での質問なのか、ということもある。

○西田委員長

各まちづくりセンターで年間活動の事例報告みたいなのがなかったか。

○柳楽委員

ある。

○西田委員長

その最新版をいただいて。主な活動しか事例は出されていないと思うが、それだけでも違うかと。

○村木委員

事業計画はどここの団体もあるはず。予算規模など、事前に腹入れしておいたほうが良いかと思う。地域井戸端会の際に地域の病院の話が出たが、地域のことを知らないような質問が出たということで苦言もあった。今回、各団体に逆に自分たちの自慢をしてもらい、それに対して質問する形式もありかと思はれた。そのほうが、やる側は楽である。うちにはこれだけの組織があり、年間を通してこれだけの活動をやっているというのを発表してもらい、それを聞くというのも一つかと。しかし、今回そ

の形ではないので、ある程度質問を考えていくなら各団体の活動内容や組織は、事前に何らかの形で知っておいたほうが良い。

○西田委員長

令和4年度版の事例集だと、コンパクトなので全体が分からないかもしれないが。それは各まちづくりセンターから簡単に資料をいただけないものか。

○小寺書記

担当課に確認してみる。

○村武委員

担当課が持っているのでは。

○西田委員長

持っているなら、それを資料としていただけたら目を通して意見交換に向かう。できればそのほうが良い。

○村武委員

令和5年度の事業計画書も担当課が持っていると思う。

○小寺書記

令和4年度の報告と、令和5年度の計画が取り寄せられるかどうかを確認する。

○西田委員長

事務局で確認してほしい。

○村木委員

その上で質問を。ヒアリングシートの項目を。

○芦谷委員

ヒアリングシートを完成させて、これに沿ってやるのか。

○西田委員長

ヒアリングシートは一応、参考資料として。

○小寺書記

次第書のように思ってもらえば良いかもしれない。こういったことを特別委員会として聞きたいということ、事前にお伝えするためのヒアリングシートである。

○芦谷委員

直感的に実感するのは、議員でもばらばら、こういうのもばらばらで、各地区に行っても全くこちらが思うことにならないように思う。協働のまちづくりとは、地域活動とは、ということをざっくりばらんに聞いて、それを行った委員が整理して協働のまちづくりの提言に兼ね合わせるような方法を考えないと、なかなか先が見えない。ヒアリングがうまく回れば良いが、現場に温度差があるような気がする。レジュメや討論の柱などを整理すれば良いと思う。それとヒアリングシートの関係が見えなかった。

○西田委員長

ヒアリングシートは一つのベースには大事だが、聞く項目によっては、そこが一番肝心な問題だと思う。

○芦谷委員

地域に入って混乱がないように、議論がうまく回るように設定しなければならない。

○西田委員長

ヒアリングシートは各地域のまちづくり委員会によって活動の中身が違うので、ヒアリングシートの項目も地域に合った中身にするか、それとも統一するか。

○小寺書記

こちらには地区まちづくり推進委員会にどういったことを聞いて、提言にどう結び付けたいかという目的があり、その内容に合致することを聞くものだと思う。したがってそれを皆で今決めていただければと思う。

○西田委員長

その中身については今日、ある程度決めておかなければいけない。

○小寺書記

後で出してもらうのでも良い、まだ一応時間はありそうなので。提言前にこういったことを聞いてみたい、実際にまちづくりをされている方がどう思っているか、こういうことが知りたいのだという、委員の気持ちがあつての意見交換だと思うので、それに基づく質問内容が出れば良いかと思う。

○西田委員長

テーマの中身、項目について、色々な意見がいただきたい。

○小寺書記

ヒアリングシートを作るというベースに基づいて、どういったことを聞きたいか委員に改めて伺うようにして、それをまとめる形が良いかと思うがいかがか。

○西田委員長

それで良いか。

(「異議なし」という声あり)

○柳楽委員

あまり項目が多すぎると時間内でまとめ切れないと思うので、本当にポイントを絞らないといけないと思う。

○小寺書記

柳楽委員が言われるとおりでと思う。皆から出てきたものを再度皆に見てもらって、精査していただく。そのような進め方で良いかと思う。

○西田委員長

ヒアリング項目について、改めて考えておいてほしい。

○小寺書記

一応事前の参加依頼にて、こういったことを伺いたいという触りくらいは言っておきたいので、今の目的にある「令和3年から始まった協働のまちづくりについて」や「地域でのまちづくりの課題について」といったことくらいは、言っても良いか。どういう意見交換会か、相手方も少しは分かっていたほうが良いと思うので。

○西田委員長

当特別委員会がこれまでやってきたことについては、やはり触れておかなければい

けないと思う。それについて、まちづくり推進委員会の立場からの意見が聞きたいということで。あまり広範囲になり過ぎてはいけない。その辺を踏まえて項目を考えてみてほしい。

○村武委員

浜田地域は、石見地区の黒川で今年準備会が立ち上がっていて、来年度から始動する。そのように準備されているところなども、そのときの意見などが聞けると良いのだが。浜田のほかの地域にもそういう事例があるかもしれないが。

○西田委員長

そのように、来年度からも立ち上がるようなところにも案内するか。会長は決まっているのか。

○村武委員

今の段階での会長は決まっている。これは浜田地域だけだと思う。特に浜田と石見は100%ではないので、そこだけだと思う。浜田と石見はこれから委員会を立ち上げたり、考えたりするところが出てくると思うので、そこに向けての課題なども聞けるのではと思う。

○西田委員長

相手方のほうが聞きたいことが多いかもしれない。

○村武委員

ほかの地域とは聞く内容が変わってくるかもしれないが。

○西田委員長

そこについていかがか。これから立ち上げるところにもご案内するというのは。

○小寺書記

今、浜田の組織率が39.7%、石見66.3%。ほかは100%になっている。西田委員長が言われたように、向こうから聞きたいこともあるかもしれないが、こちらから聞きたいことが、できてやっているところとまだこれから立ち上げるところだと当然違うと思う。それが一緒になってやるのがどうかとは思っているのだが、逆にそこが混ざって良いという考え方もあるかもしれないが、まだのところの話をしているときに、できている地域の方がどう思うだろうか。やるなら分けたほうが良いような印象は受けた。

○村武委員

準備会はどの程度なのかが分からないが、多分石見でできてない残り33%は黒川なのかなと思う。どの程度準備会ができているか私も把握してないのだが、どうか。

○小寺書記

前回の特別委員会の中では、設置済みのところを対象にやろうということでリストを作っているところではある。まだのところからも聞きたいということであれば、別で設定することは考えても良いかとは思っている。浜田地域と石見地域にどういった団体があるかは改めて確認する。

○西田委員長

当特別委員会の目的というのが、協働のまちづくりに関することで地域でのまちづ

くり活動について意見聴取をしたい。既にやっているところも立ち上げる準備をされているところも、それぞれ地域の思いはあると思う。そういったものも含めて一緒にどうだろうか。分けたほうが良いか。あくまでも当初のとおり、活動されているところの意見聴取だけにするか。

当特別委員会の提言をより充実させるための意見聴取をするに当たっては、既に活動されている方々のほうが、提言に結び付くだろうか。

○柳楽委員

多分どちらの視点も大事かと思うので、立ち上げ準備段階の方たちが立ち上げるのにどういうことが課題だったか、苦勞した点、行政からの手助けの話など、それはそれで確認したほうが、少なからずこれから立ち上げる場所も残っているので、そこは確認したほうが良い。ただ、それを同時進行でやるメリットとデメリットがある。

○村木委員

個人的には活動中の場所も準備段階の場所も、最初に各団体の中身を知った上でという話をしたが、組織の中をいじるつもりは毛頭なく、あくまでも協働のまちづくりという社会教育の手法と生涯学習の理念を持っていくのが恐らく根底にあるはずなので、僕は一緒にやっても良いと思う。

そこに行くまでのプロセスが大事だというのが協働のまちづくりだと思う。誰が何を担うかが協働のまちづくりの根底だと思っている。組織ができていても、できていなくても、そのやり方は同じだと個人的に思っている。

○村武委員

多分浜田は、たくさんになるとそこでグループ分けすれば良いと思う。もしできないところが何団体か来られたら、そこはそこで1チーム設ける。そうすれば混乱しないと思う。現在立ち上げ中の場所の話も参考になると思うので、同じ日が良い。

○西田委員長

浜田は一応7日なので、全議員が一番多く対応できると思う。参加者数に応じて柔軟な対応で意見交換したい。これから立ち上げる場所にも同じように案内しようか。

○柳楽委員

可能であれば。

○小寺書記

一緒にすれば良い部分はあると思う。ただ、こちらからのヒアリングシートは同じものにはならないと思うので、そこだけ整理してもらいたい。今から皆に質問項目案を出してもらおうが、その際、質問対象ははっきりしておいてもらいたい。

○西田委員長

シートの項目はあまり多くないほうが良いので、項目はまとめたほうが良い。

○小寺書記

それは皆から出してもらった案を見てまとめる作業をしたほうが良い。

○西田委員長

皆が出す項目は、改めてまとめていこうか。案内はこれから立ち上げる場所も含

め、当日の参加者次第で柔軟な対応をすることに決めたい。よろしいか。

(「はい」という声あり)

(2) その他

○西田委員長

意見交換については以上で良いか。ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

なければ暫時休憩する。

[11 時 01 分 休憩]

[11 時 27 分 再開]

○西田委員長

休憩前に引き続いて委員会を再開する。

2 提言内容確認について

(1) 執行部との意見交換を踏まえた委員からの修正内容確認

○西田委員長

提言内容について皆から色々な修正をいただいたのを参考に修正している。修正した箇所は委員ごとに色分けしているので一応目を通し、意見をいただきたい。

○小寺書記

配信した資料を見てほしい。1項目ずつ意見のある方から補足があれば言ってもらい、それを踏まえて皆で協議して決めていただきたい。

○西田委員長

順番に進める。最初は柳楽委員2段落目の1行目、「しつつ」の「つつ」が気になったので省いた。

下から2行目「十分な配慮を願う」が少し弱い気がしたので「善処」としてはどうかと思った。

○西田委員長

これについていかがか。これで良ければ良い。何か意見があればお願いします。

○小寺書記

「開催しつつ」は、委員会をこれだけ開催したというのと併せて、こういったこともやっているということが言えたら良いという意味の「つつ」だったので、「併せて」で良いか。

○柳楽委員

事務局が言われたように、多分そういう意味合いだろうとは思ったので、そこに付け加えたら良いと思う。

○小寺書記

「委員会の開催と併せて」

○西田委員長

「開催しつつ」ではなく「開催と併せて」

○小寺書記

回数もこれから増えていくと思う。

○西田委員長

一番下段の「提言内容について十分な配慮を」を「提言内容について善処願う」とされたのはいかがか。

○芦谷委員

「望む」というのが弱いと思った。「一層推進されたい」など、執行部の背中を押すように強く言ったほうが良い。

○西田委員長

いかがか。良いか。

(「はい」という声あり)

では芦谷委員の言われたように「一層推進されたい」に変えさせてもらう。

○小寺書記

「善処」はどうなるか。

○西田委員長

良いか。

(「はい」という声あり)

では「十分な配慮」を「善処」に変える。次に(1)まちづくり推進委員会。赤線を引いた点は前回の委員会を踏まえて削除している。青いところについて、柳楽委員。

○柳楽委員

「また」を付けたらどうかというのと、「醸成に努められたい」となっていたのを区切らず「醸成に努めるとともに、町内の区域に」とつなげても問題ないと思ったのでそうした。「事業者に対し、」となっていたかと思うが、「事業者に対しては、」としたほうが良い。

一番気になったのが、「中山間地域振興特別委員会の提言にもある、常日頃からの安否確認方法として例えば3か月に1度程度」とあるのだが、常日頃の安否確認が3か月に1回はちょっとあり得ない気がしたので取った。安否確認をここに入れるのはどうなのかと感じる。地域のつながりを付けるためには3か月に1回程度集まって何かするというのは大事かと思うが、安否確認という言葉ではないほうが良いかと思う。

○村武委員

安否確認が気になるというよりも、安否確認の方法として3か月に1度程度の集会在気になるということか。

○柳楽委員

安否確認となると本当に日常的に、何か月に1回ではなく日常的にやるのが普通かと思うので、この書き方だと両方に違和感がある。

○小寺書記

最初、安否確認常会という言葉も入っていた。ここの表現は中山間地域振興特別委員会の提言にある部分から引っ張る内容かと思う。提言1の(2)の辺だが、要するにまずは皆で集まる機会をと言いたいと思うので、安否確認については省いて良いと思う。中山間地域振興特別委員会ではこういうことを言っていたという部分が入れば良い。

○村武委員

集まるというのはすごく大切だとは思う。「四季を感じる会」に私は違和感がある。それはどこに書いてあるか。

○小寺書記

それは書いてない。

○西田委員長

3か月に1回というのが、四季折々で集まるような会という意味なのだが。

○村武委員

集まる会というのは良いと思う。「四季を感じる会」を入れるのが良いか疑問が残っている。3か月に1度程度が良いかどうか分からない。

○西田委員長

集金常会は必ず毎月1回ある。

○村武委員

集金常会をやるとなると浜田地域は本当に難しい。そこはあまり言ってほしくない。

○西田委員長

ただ、集まる機会をつくるのが協働のまちづくりにつながる。今までもイベントで集まることはあるが、行政的にも重視するような仕掛けづくりが大事だということが言いたい。

○村武委員

町内全員が集まるのはなかなか難しいと思うが、できれば皆で集まろうという場を要求されている感じか。

○西田委員長

町内会や自治会の集まりも年間計画内にあると思うが、より集まる。まちづくりセンターでの行事もあるし、団体、地域組織内でも集まる機会はたくさんあるとは思う。

○村武委員

集まる場をつくるというのは、町内会会員同士のつながりを強化するためと書いてあるので、強化するために集まる場をつくるということか。

○西田委員長

はい。集まれば自然と話もするし、未来の話も出るかもしれない。前向きな集まりがあればより良いかと思う。

○上野副委員長

うちの地域には集金常会が毎月ある。それ以外に100歳体操。まちづくり役員が参加を募り、だんだん広いところへ向けて皆を誘い出す仕組みになっている。強制でも

何でもなく、自分の意思で参加する。市内では健康面で皆が集まることあるか。

○村武委員

うちの町内会でそういうことはほぼない。皆で集まるのは溝掃除のときと、町内の懇親会が年1回あるので、そのとき皆に声掛けしている。つながりをつくるイベントはそれ1回しかないが、町内会内でサロンなどはやっても良いかとは思っていたのだが、なかなか難しくできなかった。皆を対象にした集まりを年に何回かするのは難しいと思った。しかし、健康など何かをテーマにした集まりはできるかもしれないが、町内単位、町内会となると難しいかもしれない。旭は町内会でやっているのか。まちづくりの単位ではなく。

○上野副委員長

まちづくりよりもっと小さい単位で。そういうところで集まらないとなくなっている。例えばお宮の米を作ったら袋へ入れてお宮に納める。それを皆持ち寄ってもらう。イノシシのために囲った柵を点検して歩こうとか。

○西田委員長

地域課題の解決のためにやっている。

○村武委員

地域課題のためになると余計に、3か月に1回くらい。町内会単位で集まるというのを現実的に感じられない。

○小寺書記

村武委員が言われたように、町内会で溝掃除と懇親会2回だと物足りなさを感じるかと思う。一番狭い単位が町内会だと思うので、その中で顔が見えるような付き合いができるように、3か月に1回は皆が集まって話ができるよう、例えばサロンをやってみても良い。まずは3か月に1度、楽しみながら集まれる機会を設けてはどうかと、当特別委員会から提案するもので、その名称の一例が「四季を感じる会」。

当初正副委員長と話した際は、食を絡めたような、何か一品ずつ持ち寄って皆で食べる会、酒を飲む会、何でも良いのでそういうところからまずは顔が見える関係づくりを町内会単位でやってほしい、そこからまちづくりに発展してほしい、というものだと事務局としては認識している。したがって、常日頃からの安否確認方法としてということではなく、中山間地域振興特別委員会の提言の「まずは集まる」というのが大事だと思うので、そこを取れば良いと思う。

○西田委員長

まちづくりが進んでいるところ、進んでないところ、進んでいるところは同じ地域の目標、課題もそうだが、同じ目標を掲げて地域の人が一つの方向へ向いている。そういう人がより多く集まると、より良い活動をしている。その中では多少けんかもあると思うが基本的には皆が同じ方向へ向いて仲良くなっている。その辺が協働のまちづくりの一番重要なところだと思う。そのためにまずは集まる。

○村武委員

そういう仕組みづくりを市からやってくれといった感じになると、できるかもしれ

ないと思いつつある。今、町内会内で話し合っ、集まる場づくりなどをやったら良いと意見を言っても、なかなか聞き入れてもらえない、進まない現状がある。しかし市からこういうものやってみたらと言ってもらえると、もしかしたら町内会も積極的にそこを検証するかと思う。

○西田委員長

高い方向へ皆がベクトルを向けるための一石を投じるような、市からの投げ掛けによって皆が動き出す仕組みになればとても良い。それが協働のまちづくりである。

○村武委員

まだベクトルに向かうというところまではすぐには難しいが、そこに向かっていくためにまずは集まるというのは分かる。

○西田委員長

ベクトルで皆が共通して言うのは、防災。あれが一番皆に共通する。そういう具体的なものがあれば、そちらに皆が思いを向ける。思いがあれば動きも出てくる。

(1)の文言についてはどうか。

○柳楽委員

ここは全体的に見直したほうが良いのでは。要は集う機会のきっかけを行政につくってくださいという内容なら良いということ。そこをもう少し良い表現に変えて。

先ほど村武委員からもあったが、「四季を感じる会」のようにはっきりした形のものを出すとしたら、テーマとして季節や行事、食といった様々なテーマの下に集うきっかけづくりをしてほしいという感じにしても良いと思う。

○西田委員長

(1)について、意味合いとしては通じていると思うがもう少し良い文言に変えたらということだが、いかがでしょうか。もう少し修正でしょうか。

○小寺書記

はい。こちらでやる。次に移ろう。

○西田委員長

次に行こう。(2)まちづくりセンターのあり方。

○村武委員

私はここを修正した。「また、地域課題に取り組むまちづくり推進委員会など組織、団体の活動が推進できるよう、連携や活動支援などを十分に図りたい」と入れた。まちづくりセンターと地区まちづくり推進委員会などとの連携が進んでいるところとそうでないところもあるので、そこをもう少し強くしたいという意図でこれを入れた。文章的に良いかどうか分からない。

○西田委員長

村武委員の意見も踏まえて、意見があればお願いします。村武委員が言われたのは、地区まちづくり推進委員会でも組織によって多くの取組ができるのと、もっと行政から後押ししてほしいという意味合いか。

○村武委員

行政側からというか、公民館からまちづくりセンターになった意味は、まちづくりセンター管内のまちづくり組織への活動支援、アドバイスが必要なところもあるのでは。特に浜田地域などはそう感じる。これがもしなかったとしたら、その後の環境的なところ、印刷機やパソコンなど活動環境を整えてほしいという内容が次に出てくる。環境を整えるのももちろん大切だが、まちづくりセンターの役割をもう少ししっかり伝えていきたい。

特に浜田地域は、まちづくりセンターとあまり関わりがない。独自で地区まちづくり推進委員会の活動を進めているところもある。それが良いかどうか分からない団体もあるようである。そこはまちづくりセンター職員が知識を持っているので、もう少し地区まちづくり推進委員会に関わって状況を見たり、ときにアドバイスをしたりといった支援が必要なのではないか。

○小寺書記

まちづくりセンターと地区まちづくり推進委員会などのまちづくり組織が、もっと連携できるようにということと、まちづくりセンターがまちづくり組織にもっと関わるようにということ。それは浜田地域がということか。

○村武委員

ほかのところがどうかも聞いてみたい。

(「できている」という声あり)

○小寺書記

下のほうで「拠点規模が人口規模や業務量に見合っていない浜田地域においては」というのがあるが、ここに入れるのは。浜田地域の話が2回出るのは格好悪い気がするので、浜田地域のことを言うならここで言うなど。これを上に上げてても良い。

○村武委員

後に付けてもらって良い。

○西田委員長

では下に入れようか。(2)については以上で良いか。文言はまた整理する。続いてどうしようか。

○小寺書記

(3)を進めてもらわないと次に進めない。皆の都合は大丈夫か。

(「はい」という声あり)

○西田委員長

(3)に移る。赤字で「重要な役割を担っている」と書いてあるが、問題なければこのままでいくか。

○村武委員

良いと思う。

○西田委員長

では(3)は修正されたままで行かせてもらう。

続いて(4)について。私が修正した。執行部との意見交換のときに意見をもらって、

スタートアップ講座、スキルアップ講座などを含めて具体的なことも聞かれていたため、修正を加えてみた。「取組として」は消して「研修ではなく」、「学び」を消して「生涯学習の機会を幅広く選択肢で」、そういった意味のスタートアップ講座やスキルアップ講座を具体的にしなければいけないかと思う。地域によって中身が違おうと思う。行政の出前講座もされているが、より地域の実情に応じた、少し専門性が入った講座を市民へ周知され、市民の意識がより前向きになるような意味をここに入れたと思った。意見をいただきたい。

○柳楽委員

良いのではないかと思う。1か所だけ「周知され」は「周知し」にしたら良い。

○西田委員長

「周知し」で良いか。

(「はい」という声あり)

ではそのように。

○小寺書記

意見交換会のときにスタートアップ講座、スキルアップ講座とあるが、これは具体的にはどのようなイメージを考えておられるかという問いがあった。どういうことを考えているか、この特別委員会の委員の見解を統一しておいてほしい。認識を合わせて持っておいてほしいのだからいかかがか。

○川神委員

具体的に何をするか。

○小寺書記

まちづくり社会教育課長はその際言われた。「例えばまちづくり委員会に集まってもらい相乗りタクシー関連をやったが、そういった部分的なテーマを設けるということではなく、まちづくり全般ということか」ということがあった。ということではなく、ではなく、部分的なテーマを設ける、その地域の課題解決につながるような学びの提供をしてくれ、例えば農地保全や公共交通確保など、幅広く提供してくれ、という考え方で良いか。

○西田委員長

あくまでも地域の実情に合った、地域で考えていることに対してどういうスタートアップをしたら良いか、どういう学びをしてどういう解決策を考えたら良いかを、地域住民が主体的になっていかないといけない。そのためにスキルアップやスタートアップは専門的なものが必要である。

○川神委員

スタートアップは地域課題に対して皆が共通認識を持つための入り口。現状認識を皆でやって、ではどうするのかという気持ちにさせるのがスタートアップ。スキルアップは課題解決のために具体的に誰かを呼んで話を聞くなど、さらに具体的なことをやるためのスキルを高めるというイメージだと思う。

○小寺書記

何か具体的なイメージがあるかと聞かれたときに、皆が答えられるようにしておいてもらえば良い。その具体的なことをここに書くのもどうかと思うので、表現はこれで良いと思うが、聞かれたときには皆共通の考えで回答を。

○西田委員長

行政主導で企画したものに参加するだけでは、やらされ感ばかりで人材育成にはなかなかつながらない。あくまでも地域住民のやる気が強くないと。

文言は良いか。もし話の中でその辺のことを聞かれると、今川神委員が言われたような回答で、皆も対応してほしいという、事務局の願いでもある。

次に(5)について。

○村武委員

これは(1)の下の部分とのつながりである。私も「四季を感じる会」というのが引っ掛かっていたこともあり、ここでは消してこのようにした。文章がどうか。

○村木委員

引き続きやろうか。1個ずつやるか。

○西田委員長

やってもらおう。

○村木委員

私も「四季を感じる会」は削除した。ここの担当だったのでこの項目しか直してないのだが、部長との話を振り返って、関わることの大切さをうたいたいかったので、あえてここに「地域を知るきっかけとなるまちづくりセンター事業への参加等、機運の醸成を期待する」とした。自治会によって行事をしているところとそうでないところもある。そうであっても続けることが大切だという話もあったので、ここで併せて、「自治会等の活動が維持・継続するためにも」と続けた。ここであえて「浜田市社会教育推進計画」を出した。今までも言ったことがあるが、この前の会議には出なかったかもしれないが、この計画の中にはふるさと郷育とはまだっ子共育という学校との関わり、それと学びのあるまちづくり、この三つの柱をうたっている。まさに、地域を知る、人が集まること、そして次にも係るキャッチフレーズの「できる人が、できる時に、できる事をする」、まさにこれは共育の理念でもある。そういったことで「社会教育推進計画をはじめ、学びを通じたコミュニケーションづくりにも期待する」と入れた。

キャッチコピーは私も削除したが、次の方が「例えば」と先に持ってこられたので、これはこれで良いと思った。

○柳楽委員

「身近に感じ」と入れた。当委員会からこういうキャッチコピーをという提案があったが、そこは部長も「これを出されるとなかなか」という話だったので出さずに、例えば「できる人が、できる時に、できる事を」というキャッチコピーの方向を検討されたいという形にしてはどうかと思った。

細かいところだが下の段落、「推進につながると考えることから市民等のまちづく

り意識が主体的になるよう」とつなげてはどうかと思う。

○西田委員長

いかがだろうか。

○柳楽委員

あとはこのピンクの部分が。

○村武委員

これは、「協働のまちづくりを推進するためには」というのを先に持ってきたほうが良いかと思って、文章を前後入れ替えた。

○柳楽委員

良いと思う。

○芦谷委員

前も言ったが「期待する」というのが二つあるが弱いと思う。「機運を醸成されたい」「学びを通じたコミュニケーションづくりを推進されたい」など。

○西田委員長

どうだろうか。

○村木委員

おっしゃるとおりだと思う。

○西田委員長

良いか。ではそのように修正する。村武委員の言われた入れ替えについても良いか。

(「はい」という声あり)

では入れ替えさせてもらう。(5)についてほかにはないか。

○柳楽委員

ここでも「集いの場」について出てくる。先ほど色々話がまとまらなかった部分は、町内会などの項目なので、やはりそこはそこで残したほうが良いのか、ここから出てくるのでここに合わせて町内会についてのところをなくすのか。考え方を確認したい。

○村木委員

私の整理としては、「まず協働のまちづくりを進めるために」ということなので、進めるためには集うことが大事だとうたっている。先ほどの町内会というのは、会議や会など合意形成を得るための集まりなのかと整理した。あくまでもまちづくり推進委員会と町内会のあり方という、合意形成をする集まりというのが(1)で、それより前に皆で集まって機運醸成していく入り口的なものが、(5)の集まりだという整理である。

○村武委員

村木委員が言われるのであれば、(1)で協議した内容は、本当に集う場が必要だというように私は理解した。会議的なことよりも楽しんで集うものだと理解していたのだが、どうなのか。そうなることと被るのかもしれない。

○村木委員

エリアが違うと思う。あくまでも協働のまちづくりのエリア、人が集まるエリア。確かに会議だけではない、盆踊りやほかのイベント、行事もそう。それとここのエリ

アはもう少し広いエリアかと思った。(1)はどちらかという土地縁が強い。

○柳楽委員

両方残すということで良いなら、それで良い。同じような内容が出てくるのでそこはどうか、確認だったので。

○西田委員長

では両方残すということで良いか。

(「はい」という声あり)

ではそのようにしよう。

○小寺書記

イメージ的には柳楽委員が言われるように、同じことを繰り返し言っている状態になっている。先ほど村木委員が言われたように、志の縁なども含めるのならそれをうたっておいたほうが良いかと思うのだがどうだろうか。

○柳楽委員

ぜひ、言い回しを変えて。先ほども出ていたと思われない形にしたほうが良い。

○西田委員長

どうしたら良いか。

○小寺書記

同じような内容だったので、例えば「四季を感じる会」といった表現が入っていた部分ではあるので、村木委員の言われた志の縁も含めた文言になれば良いかと思う。

○村木委員

だからこそ「四季を感じる会」を消した。

○西田委員長

ではそのようにさせてもらう。良いか。

(「はい」という声あり)

では(6)市として取り組む事項。

○柳楽委員

あれは消すという話になっていた。

○小寺書記

地域政策部長からは、何か不都合があるだろうかということだったが、それに対して、委員間でもばらつきがあったようだった。

○西田委員長

あのときには、旭は行政区。岡本委員があのと時言われた内容は忘れたが。

○村木委員

先ほどもこの会議の中でも、どのエリアなのか言葉が違くと分からない。自治会レベルなのか町内会レベルなのか、行政区がどのレベルなのかという話になる。

○西田委員長

違いがある程度残るのは仕方ないとは思いますが、どこかで分かるように。どのレベル、どの範囲でどう呼ばれているかが誰にも分かるのが一番良いと思う。単に名称統一と

いうわけにはなかなかいかない。これは消して良いか。

○柳楽委員

私はもう消すのだと思っていたから消した。

○西田委員長

上野副委員長、どうだろうか。

○上野副委員長

行政区と呼ぶのは旭だけ。

○村木委員

三隅の集落と言うのも違う。町内会ではない。

○西田委員長

芦谷委員、これはどうするか。

○芦谷委員

消してもらっても良い。思うところはあるが皆の合意なので。

○西田委員長

思うところで皆も合意するかもしれないが。

○芦谷委員

2行目に「果たされているか疑問である」とあるが、疑問というのは個人の感想なので弱い。したがって「果たされているか検証し」。要するに市としてもう一度検証し、地域協議会のあり方について再見されたいというのが良い。

○西田委員長

上の2行は取ったほうが良いか。

○村木委員

私は過去、一般質問でも統一すべきと言った。ただ、すごくパワーの要ることだし、そのために部長とも議論した。何が問題かという答弁に対して、それに答えられなかったのが正直なところ。したがって統一的なまちづくりをしていくという大前提がある中で、五つの地域によって名称が違うのはいかななものかと思っている。

○西田委員長

すぐには統一できないにしても段階的や将来的には統一されたいということで、残すか残さないか。

○柳楽委員

全く消すのに対して皆に抵抗があるなら違った形で。先ほども話が出ていたが、私自身も、それぞれの名称が違うことで何が問題になっているかが分からない。そこがはっきりしてないのにこれはまずいかと思う。

○小寺書記

先ほど村木委員が言われた、同じような協働のまちづくりという土台を進めていく中で、そこが違うというのがどうかという切り口ではある。

○柳楽委員

私の考えでは、名称にこだわらずとにかくその地域の皆がまちづくりを進める気持

ちに向かっていけば、特に名称自体は問題がないかと。ただ、別の地域の方と話をしている、町内会だ行政区だと、それはどの単位かといった話にはなるのかもしれないが、それが常時ではないと思う。一番は住民が名称変更に対してどう思われるかが大事なところかと思う。

○西田委員長

そういうことで2行消している。それで良いか。

○芦谷委員

今思えば合併のときに浜田市金城町久佐などとした。地域の色合いや仕組みは行政側がきちんとしてあげないと。今まであったものが皆違って皆良いということに許すのは、行政としては良くない。しかし、言われる気持ちは分かるので従う。

○小寺書記

例えばだが、地区まちづくり推進委員会の方に聞いてみるなど。地区まちづくり推進委員会で意見交換する際に、これをあえて残しているのは皆どう思われるかと。変えたほうが良いと言われればそうだし、このままで良いと言われればここは削除しようとなるかもしれない。せっかくなので聞いてみても良いかもしれない。

○西田委員長

ではそうしよう。消しても良いという意見もあったが、地区まちづくり推進委員会との意見交換まであえてここは残して、聞いてみることにしよう。

(「はい」という声あり)

芦谷委員が言われた「疑問」のところは「検証し」に変えて、あとはこのままというところで。ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

では最後の米印、「議会の協働に対する関わり方」について。中間支援組織的な役割を担うことができる、というのは消している。これは良いか。

○柳楽委員

消してほしい。

○小寺書記

ここはそもそも前の提言とは毛色が違うようなものになっていて、これはまず議会がどうあるべきかという部分だと思う。会派に持ち帰られたときに、この辺の意見があまり聞かれてないように思った。皆これで本当に良いのか。具体的に政策サポーター制度の導入や、地域井戸端会の回数を増やしてみたらどうかといったことはあるが、それは残して良いのか、皆が持てる人脈を活用してより一層まちづくりの発展に寄与してということも残して良いのか、各委員会でこのようにやってくれと入れているが、本当にこれで良いのか、改めて皆に聞いてみたい。逆にもう少し議会としてはこういったことをやったほうが良いといった意見、逆にここまで言わなくても良いのではといった意見があっても。

○西田委員長

真ん中あたりにも、「気軽な地域井戸端会として開催回数の充実」とこちらも気軽

に書いているが、開催回数の充実はそれほど簡単ではないはずである。

○小寺書記

イメージとしては聞いて、返してというのが今のベースにはあるが、本当に井戸端会というか、少し立ち寄って皆の話を聞かせてほしい、今度一般質問するのに、こういう話をしてみたい、などでも良いし、ネタ探しでも良い。そういうことに使ってもらえるような。

逆に市民も、議員に言いたいことがあれば来てもらえるというイメージではある。

○西田委員長

議会広報広聴委員会ではされている中で、横からまた意見を言っているわけなので、失礼な部分はあるかもしれないが、協働のまちづくりとしての意見で、できるだけ議会と市民とが関わる機会が何らかの形で増えないかという思いがある。もう少し良い言い方があれば。

○柳楽委員

今の話と違うところなのだが「議員はそれぞれが地域の一員として地域活動において大いに活躍している」というところが私は少し気になっている。ここをこういう表現で力強く言って良いものなのか。もしそうだとすると、この表現はどうなのか。

○西田委員長

そこは直そう。一員として地域活動に何らかの貢献を。

○小寺書記

携わっているとか。

○柳楽委員

心掛けているとか。

○川神委員

取り組んでいるとか。

○小寺書記

「地域活動に関わっている」、「取り組んでいる」どちらが良いか。

○芦谷委員

「地域の一員」は残るか。

○芦谷委員

地域の一員でもあるが、反面政治的な背景の議員もおられる。そうすると地域だけに固執するよりも、そこは。

○小寺書記

一側面ということか。

○西田委員長

浜田市民の一人である。

○小寺書記

「浜田市民として」でも良いが。

○芦谷委員

「持てる人脈」などというのも、いかがわしい。提言では。

○柳楽委員

そうかもしれない。

○小寺書記

「持てるつながり」ではどうか。

○芦谷委員

議員というのは行政と市民の間に立つ者なのか。行政連絡員みたいである。やはり二代表制をしっかり意識して、市長と対峙して、同じ市民を市長も議会も聞いてそこで勝負するという話なのだから、もう少し間に立つというか。お任せする。

○小寺書記

市民の代表として市に対して言っている。間に立っているのとは少し違うが、市民を代表している。

○西田委員長

二代表制の議会人であるとともに、地域の一員でもある。

○小寺書記

中間支援みたいなところから来ているものではあるのだが。

○西田委員長

そうではあるが。

○芦谷委員

実際はそうなのだが。

○小寺書記

「行政と市民の間に立つ者としては」を削除しても良いと思う。協働のまちづくりに対して議員も積極的に関わってほしいということ。

○西田委員長

それだけのこと。ばっさり切るか。

○村武委員

その後の、「協働のまちづくりの推進に係るメッセージの発信を検討している。手法としてははまだ議会だよりの紙面など」とあるが、推進に係るメッセージというのはどういうものか。

○小寺書記

市民等に対するメッセージ。協働のまちづくりを進めるに当たって。

○村武委員

そのメッセージをこの委員会内で考えるのか。

○小寺書記

はい。

○村武委員

協働のまちづくりを推進するために。

○西田委員長

協働のまちづくりを委員会として発信することによって市民が、協働とはそういうことなのかと何か気付きがあるなど。

○小寺書記

提言内で、行政にやってくれと言って終わるのだが、議会としてもできることはある、議会から市民へ協働のまちづくりを進めるために発信しても良いという考え方である。

○村武委員

どのようなメッセージなるのかがイメージできない。

○小寺書記

例えば、集まる機会をしっかりとつくっていかうとか。要するに提言にあったようなこと。提言を提出したことなど、これがベースになってということではあると思う。

○村武委員

分かった。ここは少し整理するか。

○西田委員長

半分から下は整理しよう。

○村武委員

全体的なところは、地区まちづくり推進委員会との協議でまた変わってくることもある。

○西田委員長

地区まちづくり推進委員会から議員あるいは当特別委員会に対して、何か思いやメッセージがあるかと聞いても良い。何を期待するか。

○小寺書記

事務局と正副委員長とで整理するということが良いか。

○西田委員長

そうしようか。

○村武委員

一応今度、地区まちづくり推進委員会との意見交換をやる。大体いつぐらいに提言を出すのか。

○西田委員長

最終的なイメージとしては、地区まちづくり推進委員会との意見交換を12月にやり、12月中にいただいた意見をまとめて、1月に入ってこの中に少し加えるなどアレンジして、提言の中身をしっかりとさせた上で2月の全員協議会あたりで提言したい。そのような流れかなと思っている。

○小寺書記

もう少し前が良い。

○西田委員長

前倒しできれば、なお良い。

○小寺書記

12月中に意見交換会の内容を踏まえて提言を仕上げる。1月に政策討論会をやるなら1月にやる。その内容を踏まえて1月末までに提言をする。提言した内容は2月初旬の全員協議会で報告する。

○西田委員長

政策討論会があるので、もしかしてやるやらないも含めて、事務局が言ったような流れをイメージしている。

○村武委員

分かった。

○西田委員長

一応ざっと流した。全体を通じて何かあるか。

(「なし」という声あり)

事務局からは良いか。

(「はい」という声あり)

では、大変長時間で本当に皆お疲れだった。

次回日程は、11月24日の午後1時30分から開きたい。それまでにヒアリングシートの項目について、17日正午までにお願ひする。

以上で協働のまちづくり推進特別委員会を終了する。

[12 時 50 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

協働のまちづくり推進特別委員会委員長 西 田 清 久